

2025(令和7)年度
大学院入学試験 修士課程Ⅱ期
人間生活学研究科 食物栄養学専攻
専門試験問題
(健康科学分野)

(注意事項)

1. 筆記用具は、鉛筆、またはシャープペンシルを使用してください。
2. 解答は、解答用紙に記述してください。
3. 解答用紙は、2枚配付します。足りなくなった場合は举手してください。
6. 受験番号・氏名は、すべての解答用紙に記入してください。
7. 試験時間は60分です。

【問題】

以下は、現代の社会問題に関わるキーワードをいくつか取り上げたものである。キーワードをひとつ選び、(1)～(3)の全てに日本語または英語で回答しなさい。

The following are keywords related to contemporary social issues. Choose one of the keywords and answer all of questions (1) through (3) in Japanese or English.

* 文字数の指定・制限はありません

* There is no specification or limit on the number of characters

「少子高齢社会 (the Declining Birthrate and the aging society)」

「グローバルエイジング (Global Ageing)」

「情報格差 (Digital Divide)」

「社会的孤立 (Social Isolation)」

「相対的貧困 (Relative Poverty)」

- (1) 選んだキーワードの意味や定義または、そのキーワードによって生じている課題を説明しなさい。

Explain the meaning or definition of the keyword you have chosen, or the issue that arises from that keyword.

- (2) (1) の回答内容が生じている背景や要因について記述しなさい。

Describe the background and factors that led to your answer in (1).

- (3) (1) および (2) に対する回答者自身の考えを記述しなさい。

What is your point of view on (1) and (2)?

解答

大学院

試験科目 専門科目（健康科学分野）

【問題】

以下は、現代の社会問題に関わるキーワードをいくつか取り上げたものである。キーワードをひとつ選び、（１）～（３）の全てに日本語または英語で回答しなさい。

The following are keywords related to contemporary social issues. Choose one of the keywords and answer all of questions (1) through (3) in Japanese or English.

* 文字数の指定・制限はありません

* There is no specification or limit on the number of characters

「少子高齢社会（the Declining Birthrate and the aging society）」

「グローバルエイジング（Global Ageing）」

「情報格差（Digital Divide）」

「社会的孤立（Social Isolation）」

「相対的貧困（Relative Poverty）」

（１） 選んだキーワードの意味や定義または、そのキーワードによって生じている課題を説明しなさい。

(1) Explain the meaning or definition of the keyword you have chosen, or the issue that arises from that keyword.

（２） （１）の回答内容が生じている背景や要因について記述しなさい。

(2) Describe the background and factors that led to your answer in (1).

（３） （１）および（２）に対する回答者自身の考えを記述しなさい。

(3) What is your point of view on (1) and (2)?

【解答例】

「少子高齢社会 (the Declining Birthrate and the aging society)」を選択した場合

- ① 少子高齢社会とは、人口において、年少人口割合が低く、高齢人口割合が高い社会を指す。出生率が2.0%を下回ると、その人口規模を維持できなくなり、賦課方式で運営している年金などの社会保障制度に影響を与える。
- ② 日本では、出生数が減少し続けており、また団塊の世代が高齢期にあるため、少子高齢社会が進行している。日本で少子化が進んでいる背景には、ライフスタイルの多様化の他にも、子の養育にかかる経済的負担の高さや働き方の非柔軟性（特に女性の家事負担の高さやキャリアの中断）が挙げられる。
- ③ ①および②に対する自身の意見が述べられていることを確認する。以下のキーワードも同様。

「グローバルエイジング (Global Ageing)」を選択した場合

- ① グローバルエイジングとは、世界的な高齢化を指す。世界の65歳以上の人口は2020年で約7.4億人であるが、2065年になると約19.8億人に増加する。医療、介護、社会保障、高齢者の尊厳なども世界的な課題となり、特に高齢化が急速に進行する国々や途上国では、制度やインフラ整備も含めたケアシステムの構築・拡充が急務となる。
- ② アフリカ、アジアやラテンアメリカでも、2010年から2030年にかけて高齢者数が倍増することによりグローバルエイジングが生じている。その背景には、出生率、医療の進展による寿命の延伸、死亡率の低下が挙げられる。

「情報格差 (Digital Divide)」を選択した場合

- ① 情報格差とは、情報通信技術を利用できる人とそうではない人との間に生じる不平等な差のこと。情報通信機器を利用できないことによって、情報の収集の差だけでなく、恩恵を得られなかったり、手続きや決済ができず、生活に支障を来したりする場合もある。
- ② インターネットの拡充やパソコン、スマートフォンなどの情報通信機器の普及により、行政手続きも含め、生活に関わる多くの手続きや決済が電子化されていく中で、情報通信技術を利用できる人とそうではない人と間に格差が生じている。特に高齢社会においては年代による差が顕著であるが、他にも経済状況や障がいの有無も影響している。また、インフラの整備状況といった地域や国の間でも差が生じている。

「社会的孤立 (Social Isolation)」を選択した場合

- ① 社会的孤立とは、家族や地域社会との交流・接点が、客観的に著しく乏しい状態を指す。社会的孤立は、生活の質の低下、生きがいの喪失や幸福感の低下、抑うつや認知機能の低下、自殺や孤独死、虐待等を引き起こす要因ともなりうる。
- ② 単身世帯の増加の他に、社会的孤立は、性別、雇用状況や就労の有無、経済状況にも起因するといわれている。また、利便性の高まりや人間関係の希薄化により一人になりやすい社会システムもその背景にある。

「相対的貧困 (Relative Poverty)」を選択した場合

- ① 相対的貧困とは、特定の社会における生活様式において、その中の大多数の人と比較し、標準的な生活様式や習慣、活動に参加することができない貧しい状態を指す。日本では、厚生労働省が、相対的貧困率について、国民生活基礎調査において貧困線を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合と定義しており、他の先進国と比べて高値にある。また、貧困は世代間連鎖を引き起こすため、その改善が課題となっている。
- ② 日本の相対的貧困率の上昇や横ばいの背景には、非正規雇用者と正規雇用者との所得格差の拡大、非正規労働者が長期にわたり増加し、所得の低い世帯が増加傾向にあることが挙げられる。相対的貧困にある世帯は、高齢世帯や一人親世帯、単身世帯である割合が高いが、こうした状況に対し、社会保障の充実による改善よりも、経済状況や雇用環境に依存していることも、相対的貧困の高止まりの背景として挙げられる。